

先輩から



学び直しとキャリアデザイン

須和 憲和 (2022 博 社会安全研究科)

近年、リカレント教育が注目を集めています。なぜ私が学び直そうと思ったのかお話しします。私は、1980年3月に関西大学経済学部を卒業し、地元のバス会社に入社しました。50歳の時に重大事故が連続して発生し、その立て直しを会社から命ぜられました。最初の1年は事故の裁判・示談に明け暮れました。社内には参考にするものがなく、模索していたところ、交通心理学という学問があることを知りました。事故は運転者の責任であると思っていましたが、管理する側にも問題があると分かり、経営戦略を学び、MBAも取得しました。50歳を過ぎ、課題が目前に迫り、ようやく自我に目覚め、学ぶことのおもしろさに気づきました。

しかしながら、これだけでは、自己・自社の対策はできたとしても、社会全体の安全に貢献するには限界があるので、大きな視点から事故防止、安全管理について学ぶことができる日本で唯一の、関西大学大学院『社会安全研究科』で学び直そうと決心しました。そのとき、偶然にも国土交通省のセミナーで同席させていただいた安部誠治教授に相談することができました。

2019年4月に社会安全研究科に入学し、社業と学業が両立しやすいよう、スケジュール管理をしていただきました。いつもギリギリで切羽詰まった状態での査読論文の提出、発表が分かりやすいようにとパワーポイントのご指導までしていただきました。私が学んだ3年間のうち3分の2の時間はコロナ禍でした。学生同士の交流などは限られましたが、数少ない中でも刺激を受けることができました。いままで実務ベース

で思考していたものが偏った見方であり、文献・資料調査やインタビューを重ねることによって学問の奥深さをあらためて認識しました。

2022年3月14日には、国土交通省の運輸安全マネジメント総合セミナーにおいて、「バス事業における事故防止と安全管理」について博士論文の一部を発表し、運輸関係者の共感を得ることができました。重大事故や災害の体験を後世に伝えていくことは難しいテーマです。同じ失敗をしたり、被害を出したりしないようにするために、事実をどう伝えるかが課題であり、それを解決する一助になり得たのではないかと確信しています。

社会が目まぐるしく変わる今日、仕事で求められる知識やスキルを、時代の変化にあわせて継続的にアップデートすることが求められています。学び直しは、生き方や働き方の選択肢を増やし、人生の幅を広げることに繋がります。「学び」に遅すぎることはありません。何歳になっても学び続けていくことは重要です。私は現在64歳ではありますが、今後は自身がロールモデルとなるべく、生涯現役を目指し、実務と研究の往復運動を続けていこうと考えています。

学位を授与されたことは、これからの人生において何よりの励みになります。これまで支えてくださいました諸先生方、励ましてくれた家族に感謝の気持ちを贈ります。